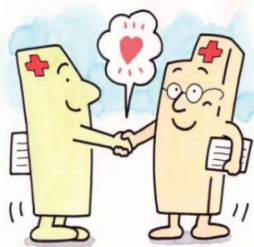


第228号

連携室だより



公益財団法人 北海道医療団 **帯広第一病院**

帯広第一病院理念・基本方針

【理念】

地域に信頼される病院を目指し、質の高い、思いやりのある医療サービスを提供する。

【基本方針】

- 1 患者の皆様の安全と権利を守ります。
- 2 地域医療機関との連携を推進します。
- 3 救急医療の充実に努めます。
- 4 研修や教育を積極的に行います。
- 5 働きがいのある職場を作ります。

公益財団法人北海道医療団

永年勤続者表彰式

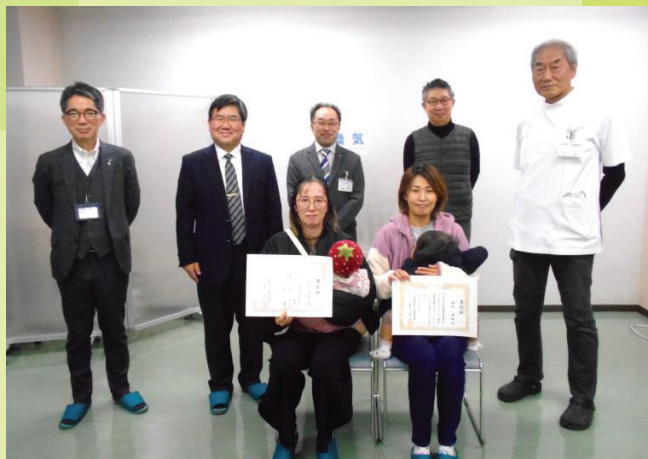


帯広第一病院

法人各施設で永年勤続者表彰式を行いました！



帯広西病院



介護老人保健施設とかち

今号の内容

- ・新年のご挨拶 理事長 三浦 雅人 / 院長 山並 秀章 (2)
- ・皮膚・排泄ケア認定看護師の取り組みについて 皮膚・排泄ケア認定看護師 川浦 美和子
緩和ケア認定看護師の取り組みについて 緩和ケア認定看護師 平田 淳朗 (3)
- ・当院でお出ししている多くの患者さんに向けたメニュー「ツナのクリームパン粉焼き」をご紹介します
インクルーシブフードへの小さな取り組み～嚥下調整食の提供から～ 栄養科 (4)

新年のご挨拶を申し上げます



理事長 三浦 雅人



明けましておめでとうございます。

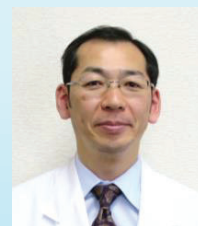
昨年ようやく新型コロナの大流行は収束しましたが現在も感染者の外来受診は続いています。一方、コロナ禍で減少した入院患者数はいまだ回復せず病院経営は厳しさを増しているのが現状です。そのため病院として今後の方向性をしっかり決めることが重要だと考えています。

そんな中、先日「新たな地域医療構想」が厚生労働省から発表されました。2018年4月から始まったこれまでの地域医療構想では団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けて地域の医療機関に病床機能ごとの病床数を報告させ、地域として適正な病床数に移行させようとするものでした。しかし、新たな地域医療構想では病床機能だけでなく、医療機関機能についても報告する方向性が示されておりそれは以下の三つです。

- (1) 高齢者の受け皿となり、地域への復帰を目指す機能
- (2) 在宅医療を提供し、地域の生活を支える機能
- (3) 救急医療等の急性期の医療を広く提供する機能

この方向性を踏まえ、今後私たちは自分たちの病院の機能を明確にしながら、2040年に向けて地域の皆様に信頼される医療・介護を提供できるように努力してまいりたいと思います。本年もご支援のほどよろしくお願いいたします。

院長 山並 秀章



あけましておめでとうございます。

今年は乙巳（きのとみ）の年だそうで、成長と結実の時期となるそうです。また、へびは金運の象徴とも言われています。皆様にとっても、実りある、よりよい年になるように祈念いたします。

さて、他の医療機関も同様と思いますが、帯広第一病院も今後の地域医療構想の中でどのような役割を担っていったら良いのか、模索しているところです。昨年は介護施設との連携を強めていくために、介護施設対象の連携の会を行いました。今年はそのつながりを確実なものとしていき、高齢者救急に力を入れていきたいと考えております。従来の消化器疾患の診療に加え、地域の中での当院の役割をしっかりと、果たしていきたいと思っておりますので、これからもよろしくお願いいたします。

皮膚・排泄ケア認定看護師の取り組みについて

皮膚・排泄ケア認定看護師 川浦 美和子



皮膚・排泄ケア認定看護師の活動について紹介させていただきます。2012年に資格取得しました。この12年間は師長業務との兼務でしたが今年から専従となりましたので、院内のみならず活動の場を地域にも広げていきたいと考えております。

業務内容といたしましては、院内の褥瘡ケア、排泄の相談対応、ストーマ外来（月・火・水・金の午前）などを行いながら、院内外の研修などにも対応させていただいております。

今回地域の医療機関や訪問看護ステーションに向け認定看護師の同行訪問について紹介させていただきますと思います。訪問看護を受けておられる方を対象に、担当訪問看護師に同行することで自宅においてもより専門性の高い看護を提供するお手伝いが出来ます。



対象になる患者様

- ① 真皮を越える褥瘡の状態にある方。
- ② 人工肛門もしくは人工膀胱を造設している方。

在宅患者訪問看護（同行訪問看護）の内容

- ① 褥瘡の改善に向けて、必要な処置や指導を実施させていただきます。
- ② 日々の管理において困難に感じている点についてご相談を受け、解決に向けたお手伝いをさせていただきます。

利用料について

在宅患者訪問看護・指導料は健康保険の区分による負担となります。

・自己負担額

1割負担の場合	2割負担の場合	3割負担の場合
1,290円	2,570円	3,860円

対象となる患者様がおられましたら、皮膚・排泄ケア認定看護師 川浦までお問い合わせください。

緩和ケア認定看護師の取り組みについて

緩和ケア認定看護師 平田 淳朗



配属先である緩和ケア病棟で、日々の患者カンファレンスに参加しています。カンファレンスでは医師・看護師だけではなく、MSW・栄養科・リハビリスタッフなどが参加することで、それぞれの専門的な観点から話し合いを行っています。認定看護師の立場としても、専門分野の視点で全人的に患者さまを捉え、薬物的・非薬物的な症状緩和方法について、個別性に合わせた介入ができるよう、時には情報提供を行いながら意見交換をします。変化する状況に合わせて多職種協働を行うことで、緩和ケア病棟入院中の患者さまが最期まで質の高いケアを受けられるよう取り組んでいます。また、他部署からのコンサルテーションを受け、患者さま・ご家族へ直接的な関わりを行っています。緩和ケアは終末期のみに提供されるものではなく、がんと診断された時から始まるものです。緩和ケア外来通院や一般病棟に入院している患者さまに対しても、身体的苦痛だけではなく、病状や治療の段階によって生じる不安・孤独感など、様々な苦痛・苦悩への介入が必要とされます。関わりの中で明らかとなった苦痛があれば、看護師・医師などと情報共有を行いながら、組織内で横断的な活動を実践しています。認定看護師としての関わりが一つの手助けとなり、在宅・入院など様々な環境で過ごしていても、安心して療養・入院生活が送れるための介入について日々検討しています。どのような時期にある患者さまに対しても早期から予防的に緩和ケアが介入できることで、共に過ごすご家族にとっても、安らかに生活できることへ繋がられるよう、活動をすすめていきます。



当院でお出ししている多くの患者さんに向けたメニュー 「ツナのクリームパン粉焼き」をご紹介します



【材料：1人分】

- ツナ缶(ライトレク) 40g
- 卵 1個
- マッシュポテト 15g
- 低脂肪牛乳 40ml
- ホワイトソース 15g
- 塩コショウ 適宜
- パン粉 適宜
- バター 5g
- 中濃ソース 適宜
- 付け合わせ野菜など

【栄養価：1人分おおよそ】

- エネルギー 270kcal
- たんぱく質 11.5g
- 脂質 15.8g
- 糖質 17.2g
- 食物繊維 1.1g
- 塩分 2.1g



【作り方】

- ① ツナ缶は汁気を切り細かくほぐしておく。
- ② マッシュポテトに温めた低脂肪牛乳を入れ混ぜておく。
- ③ ②のマッシュポテトに①のツナ缶、ホワイトソース、溶き卵を加えて混ぜ合わせ、塩コショウで下味をつけておく。
- ④ ③を陶器の耐熱容器に好きな形にのばし、パン粉と溶かしバターをのせてトースターやグリルでこんがり焦げ目がつくまで焼く。
- ⑤ 最後に中濃ソースをつけて出来上がりです。

ポイント

※パン粉にパプリカパウダーを少量混ぜるときれいに焼きめが付くのでオススメです。

※付け合わせの野菜などは患者さんの咀嚼嚥下機能に合わせて提供しています。写真の付け合わせは常食形態です。
※当院ではソースに少し水を加えとろみ剤でとろみを付けて提供しています。

インクルーシブフードへの小さな取り組み～嚥下調整食の提供から～

インクルーシブという言葉が様々な分野で使われ始めています。インクルーシブとは「すべてを包括する、包み込む」という意味で、個々の様々な違いに関係なく共生できる社会の事を指すそうです。

当院ではかねてから嚥下調整食分類（日本摂食嚥下リハビリテーション学会 嚥下調整食分類）に準じて対象となる方の摂食嚥下能力に合わせた食形態でお食事を提供していますが、一部のメニューで食形態を分類せずとも様々な摂食嚥下能力の方に美味しく食べて頂く事ができるメニューを考え提供しています。インクルーシブフードと呼ぶにはまだまだ改善が必要です、食事制限の内容によっては不向きとなる場合がありますが改善を重ねていき多くの患者さんに美味しく食事をお召し上りいただきたいと思っています。



帯広第一病院 栄養科

当院の嚥下調整食分類例			
食形態内基準 主要の形態は「オプの『飲みもの』欄に入力	学会基準(コード)	参考画像	備考
ゼリー	0J		主に嚥下機能に対応
みそ汁とろみ 流動状とろみ	0t		
ゼリー (細断線ゼリー含む)	1J		主に嚥下機能に対応
ペースト (コード2)	2-2		
鹿かろろみ (コード3)	3		主に嚥下機能に対応
軟菜 (コード4)	4		
粗ばくし			主に食動作に対応
一口大	学会基準外		
普通形態			一般食

注：2023.12.1現在のおよそ食形態基準、編入食材により形状の変更がありますので図解は実食例までご確認ください。

発行 公益財団法人北海道医療団 帯広第一病院 地域医療連携室
 〒080-0014 帯広市西4条南15丁目17番地3
 TEL 0155-25-3121 (病院代表) / 0120-558-091 (連携室直通)
 FAX 0155-27-0248 (連携室専用) e-mail renkei@zhi.or.jp

